

## 移住・交流・定住に関するアンケート調査結果(単純集計)

### 1 目的

東北地方への定住の可能性とその条件、また、東北地方への来訪(交流)の可能性とその条件を探る。

### 2 調査方法

インターネットによる Web 調査(株式会社インテージ)

### 3 調査対象

○インテージモニターを対象

○対象地域:関東以北 1 都 13 県<sup>1</sup>

○対象年齢:15~74 歳(15~24 歳、25~34 歳、35~44 歳、45~54 歳、55~64 歳、65~74 歳)

○対象地域の対象年齢別人口(平成 22 年国勢調査による)は下表のとおり

○対象地域とサンプル数について

- ▶ 東北・北関東 10 県を対象に、移住調査で 5,000 サンプルを確保するため、17,000 サンプルの交流・定住調査及びスクリーニング調査を実施(移住意向を 30%と仮定)
- ▶ 加えて、首都圏 1 都 3 県を対象に 3,000 サンプルの交流・定住調査を同時に実施
- ▶ すなわち、交流・定住及びスクリーニング調査は  
 関東以北 1 都 13 県 20,000 サンプル(東北・北関東 10 県 17,000 サンプル、首都圏 1 都 3 県 3,000 サンプル)、移住調査は東北・北関東 10 県 5,000 サンプルで実施(男女別・年齢別サンプル数は、極力、右表の平成 22 年国勢調査の人口構成に近づけること目指した)

東北・北関東 10 県			
	総数	男	女
15~24 歳	634	325	309
25~34 歳	769	395	375
35~44 歳	887	451	436
45~54 歳	856	429	427
55~64 歳	1,050	524	526
65~74 歳	803	378	425
合計	5,000	2,502	2,498

	対象地域	
	関東以北 1 都 13 県	
	東北・北関東 10 県	首都圏 1 都 3 県
交流調査	17,000	20,000
定住調査		3,000
スクリーニング調査		
移住調査	5,000	×

<sup>1</sup> 東北 7 県(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県)、関東 1 都 3 県(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)及び北関東 3 県(茨城県、栃木県、群馬県)

#### 4 調査期間

○交流・定住及びスクリーニング調査 : 2015年10月16日～10月19日

○移住調査 : 2015年10月21日～10月23日

#### 5 有効回答者数

○交流・定住及びスクリーニング調査 : 20,911(回収率14.6%)

○移住調査 : 5,495(回収率73.6%)

#### 6 回答者の属性

○交流・定住及びスクリーニング調査

##### 【年齢性別】

	度数	%
TOTAL	20911	100.0
男性15-24歳	763	3.6
男性25-34歳	1981	9.5
男性35-44歳	2012	9.6
男性45-54歳	1852	8.9
男性55-64歳	2347	11.2
男性65-74歳	1983	9.5
女性15-24歳	1483	7.1
女性25-34歳	1639	7.8
女性35-44歳	1873	9.0
女性45-54歳	1919	9.2
女性55-64歳	2249	10.8
女性65-74歳	810	3.9

##### 【地域別】

	度数	%
TOTAL	20911	100.0
青森県	1250	6.0
岩手県	1113	5.3
宮城県	2485	11.9
秋田県	995	4.8
山形県	983	4.7
福島県	1717	8.2
茨城県	3064	14.7
栃木県	1882	9.0
群馬県	1922	9.2
埼玉県	610	2.9
千葉県	530	2.5
東京都	1186	5.7
神奈川県	808	3.9
新潟県	2366	11.3

○移住調査

##### 【年齢性別】

	度数	%
TOTAL	5495	100.0
男性15-24歳	196	3.6
男性25-34歳	651	11.8
男性35-44歳	588	10.7
男性45-54歳	565	10.3
男性55-64歳	594	10.8
男性65-74歳	368	6.7
女性15-24歳	495	9.0
女性25-34歳	474	8.6
女性35-44歳	498	9.1
女性45-54歳	492	9.0
女性55-64歳	489	8.9
女性65-74歳	85	1.5

##### 【地域別】

	度数	%
TOTAL	5495	100.0
青森県	391	7.1
岩手県	335	6.1
宮城県	791	14.4
秋田県	289	5.3
山形県	299	5.4
福島県	601	10.9
茨城県	988	18.0
栃木県	568	10.3
群馬県	559	10.2
新潟県	674	12.3

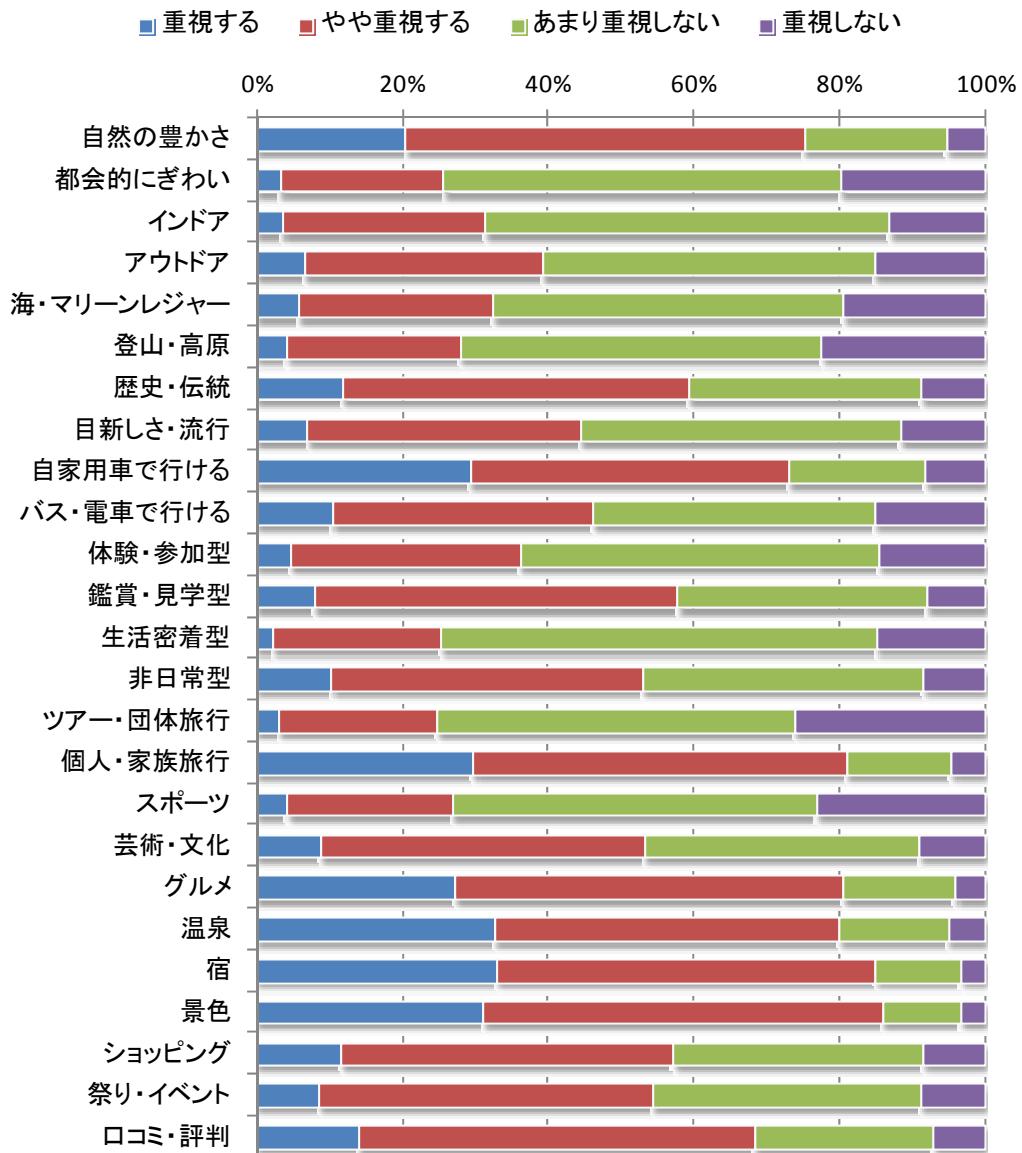
## 7 調査結果

### 7-1 交流・定住調査+スクリーニング調査

#### 1) 交流調査

設問① あなたが国内で観光・レジャーを行う場合、何を重視しますか。各項目で当てはまるもの1つにチェックしてください。

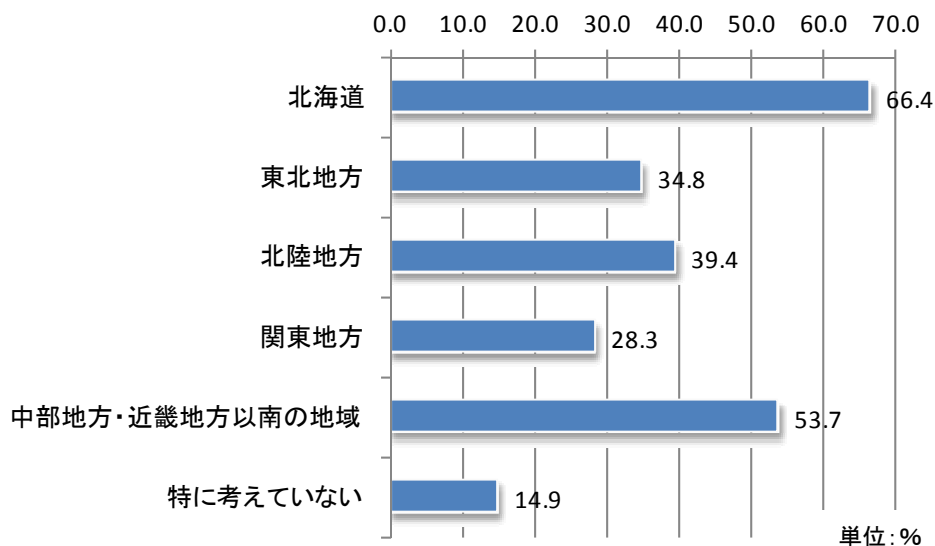
- 国内の観光レジャーで重視するものは、「自然の豊かさ」が突出し、「歴史・伝統」が続く。
- 交通手段として、「自家用車で行ける」ことが重視され、「個人・家族旅行」が好まれる。
- 「グルメ」、「温泉」、「宿」、「景色」が重点ポイントとなっている。



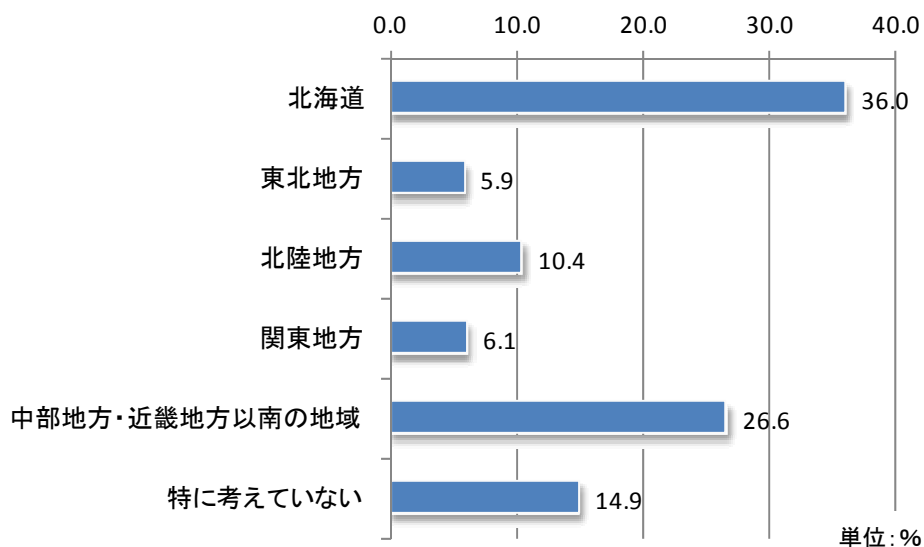
設問② それでは、国内の観光・レジャーで行ってみたい具体的な地域はありますか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最も行ってみたい地域を1つ選んでください。

▶ 最も行ってみたい地域としての「東北地方」は評価が低いものの、約1/3の人が国内の観光・レジャーで行ってみたい地域として「東北地方」に興味を持っている。

【行ってみたい地域】

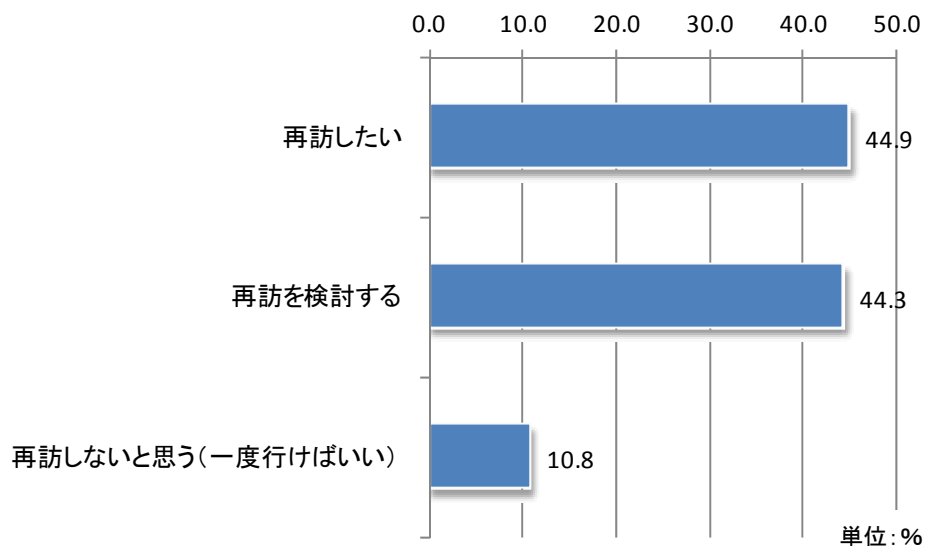


【最も行ってみたい地域】



設問③ その観光・レジャーの目的地が気に入った場合、そこを再訪したいと思いますか。当てはまるもの1つにチェックしてください。

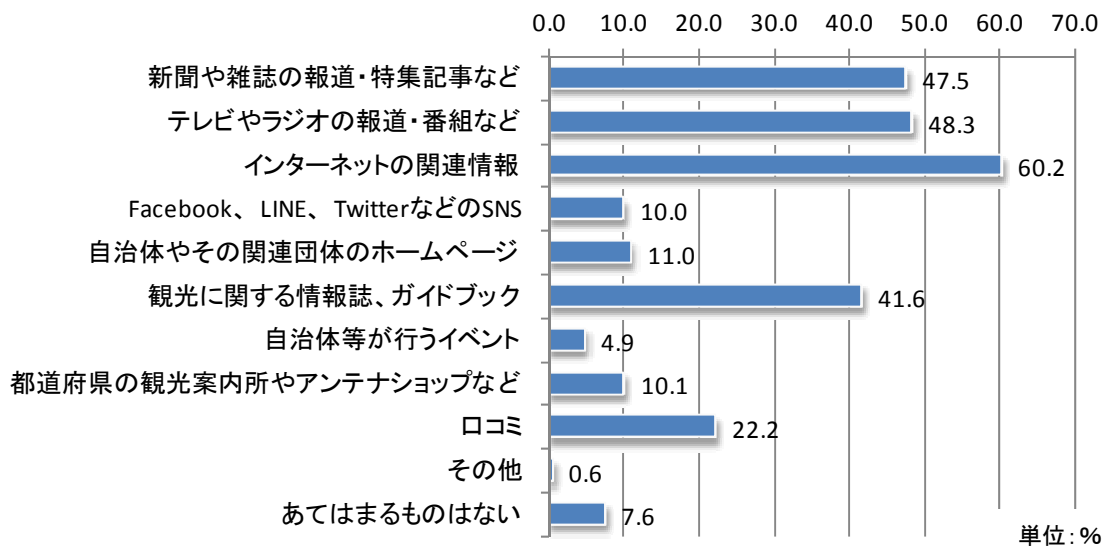
▶ 観光・レジャーの目的地が気に入った場合、「再訪したい」、「再訪を検討する」が各々約45%を占め、「再訪しないと思う」は約10%に過ぎない。まずは来てもらい、その地の魅力を感じてもらうことが重要である。



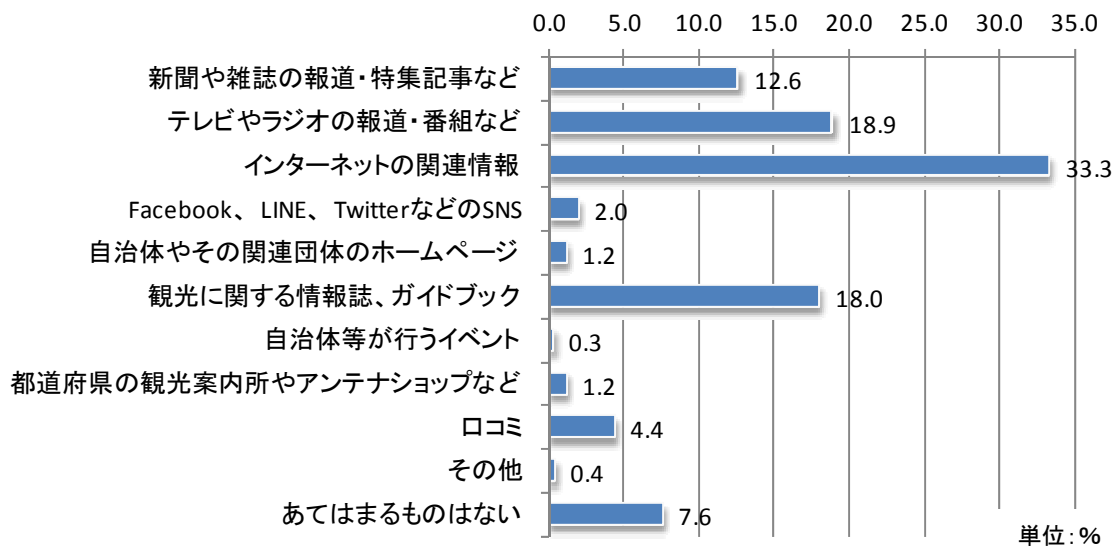
設問④ 観光・レジャーの情報源は何ですか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最も有効な情報源を1つ選んでください。

▶ 最も有効な情報源は「インターネットの関連情報」で、その他、「テレビやラジオの報道・番組など」、「新聞や雑誌の報道・特集記事など」、「観光に関する情報誌、ガイドブック」が観光・レジャーの主な情報源となっている。

【有効な情報源】



【最も有効な情報源】

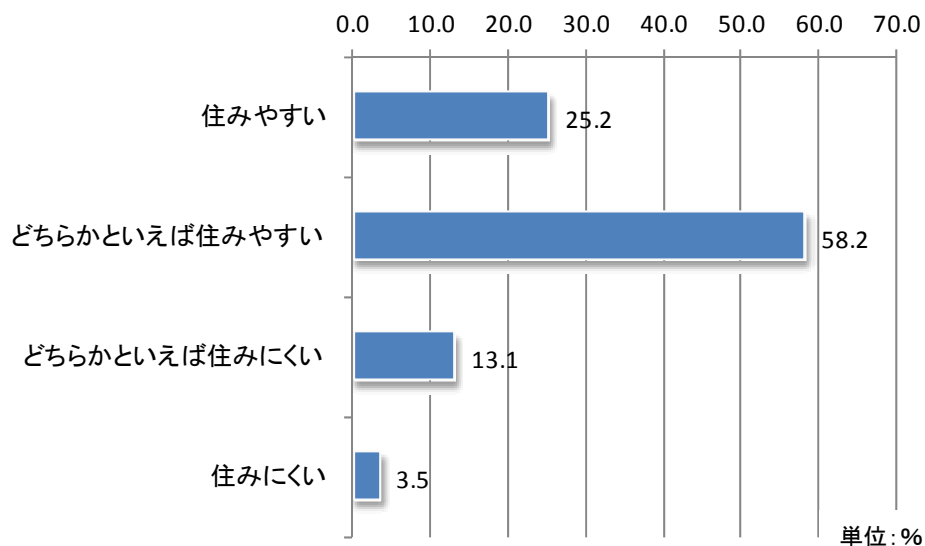


## 2) 定住調査

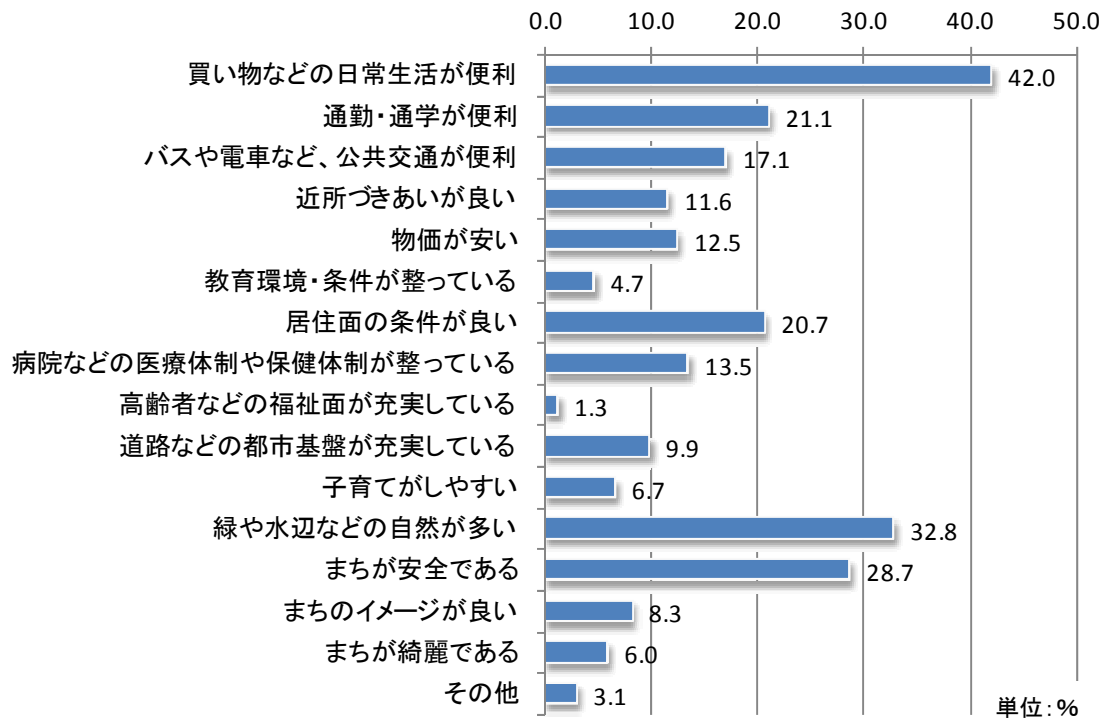
設問⑤ あなたは、現在お住まいの地域の住みやすさについてどう感じていますか。当てはまるものを1つお選びください。

設問⑥ 設問⑤でそう感じられた理由についてお答えください。当てはまるものを3つまで選んでチェックしてください。

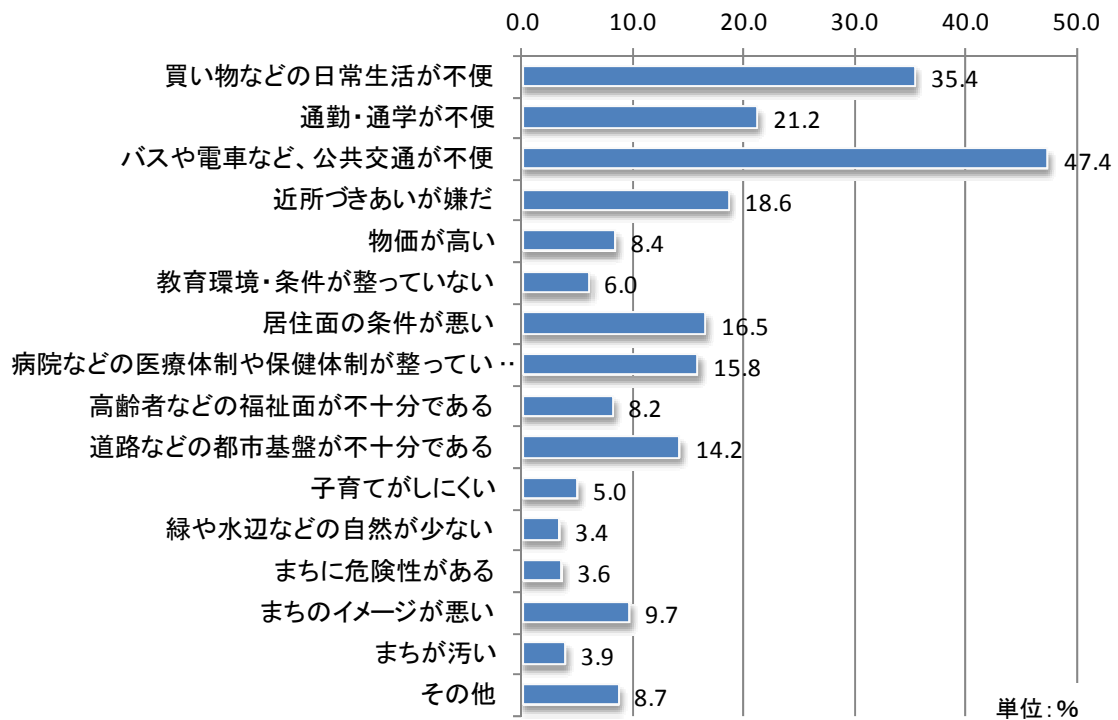
- 「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」が各々25.2%、58.2%となっており、8割超の方が現在の居住地を住みやすいと感じている。
- 住みやすい理由は、「買い物などの日常生活が便利」がトップで、「緑や水辺などの自然が多い」、「まちが安全である」が続く。
- 住みにくい理由は、「バスや電車など、公共交通が不便」がトップで、「買い物などの日常生活が不便」、「通勤・通学が不便」が続くなど、利便性の面での不満が圧倒的に多い。



【住みやすい(n= 17,456)理由】



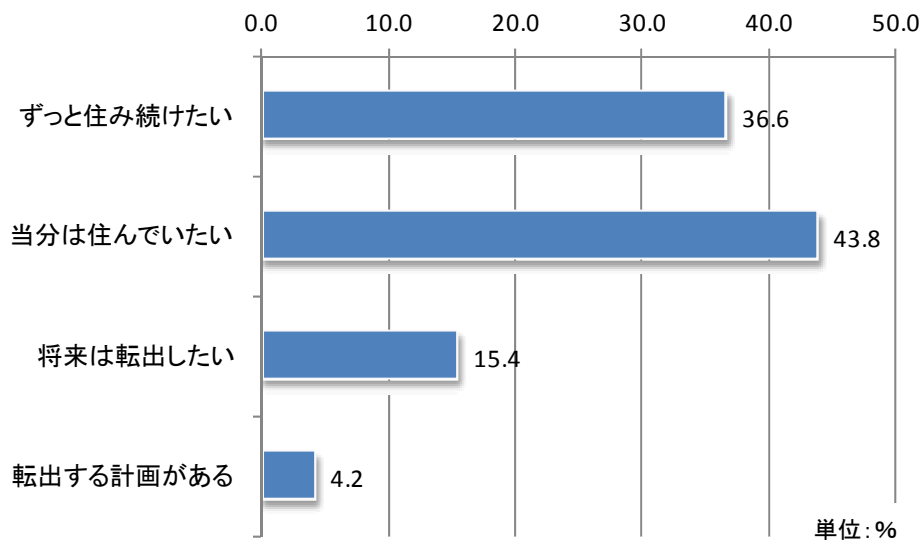
【住みにくい(n= 3,455)理由】





設問⑦ あなたは将来も現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか。当てはまるもの1つにチェックしてください。

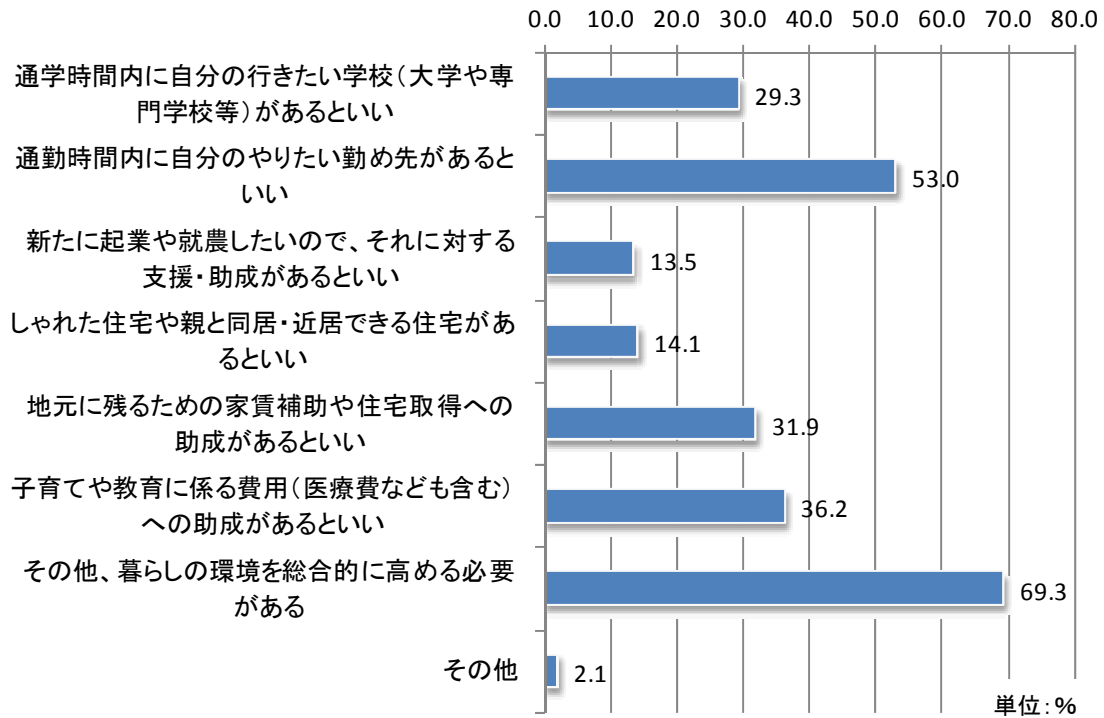
- 「ずっと住み続けたい」は36.6%と約1/3を占める。
- 「当分は住んでいたい」は43.8%、「将来は転出したい」は15.4%で、広義に捉えると、潜在的な移住希望者は約6割にのぼる。
- 「転出する計画がある」は4.2%である。



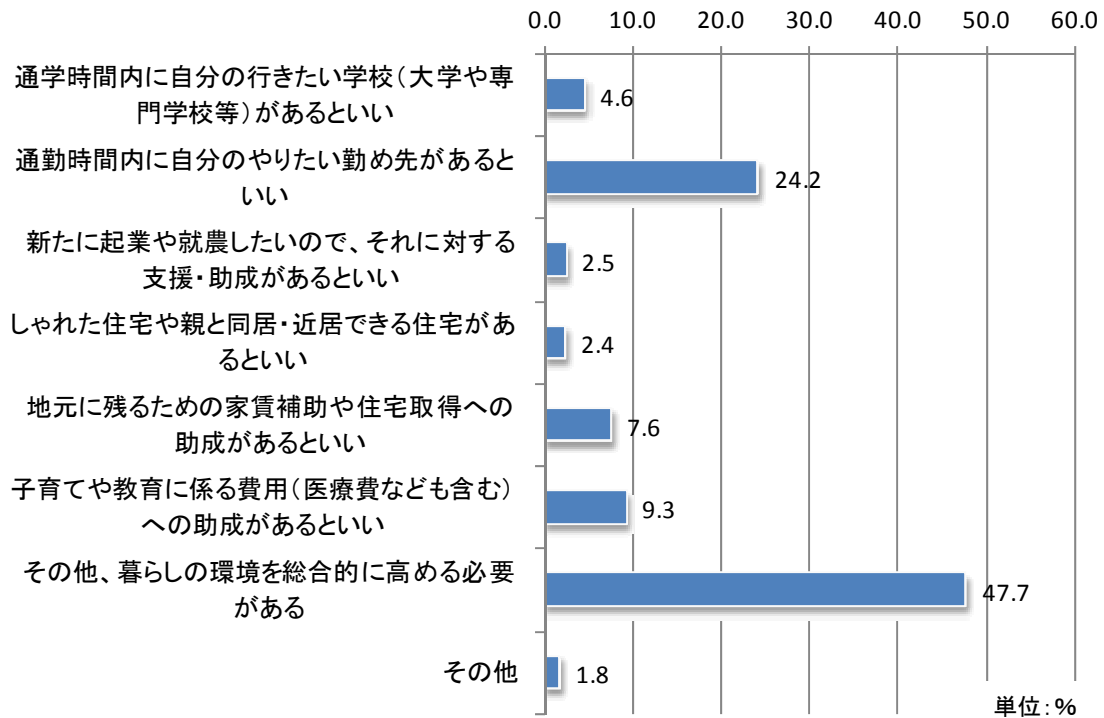
設問⑧ 就学や就職、結婚などを機に、生まれ育った地域から転居する若者が多く見られますが、地元に残るためにあなたが必要だと思う条件は何ですか？当てはまるものすべてにチェックし、その中で最も必要だと思う条件を1つ選んでください。

- 「暮らしの環境(買い物・交通等の利便性、医療・福祉環境、安全性など)を総合的に高める必要がある」が最も必要な条件とされている。
- その他、「通勤時間内に自分のやりたい勤め先があるといい」、「子育てや教育に係る費用(医療費なども含む)への助成があるといい」、「地元に残るための家賃補助や住宅取得への助成があるといい」、「通学時間内に自分の行きたい学校(大学や専門学校等)があるといい」が必要な条件として多く選択されている。

【地元に残るために必要な条件】

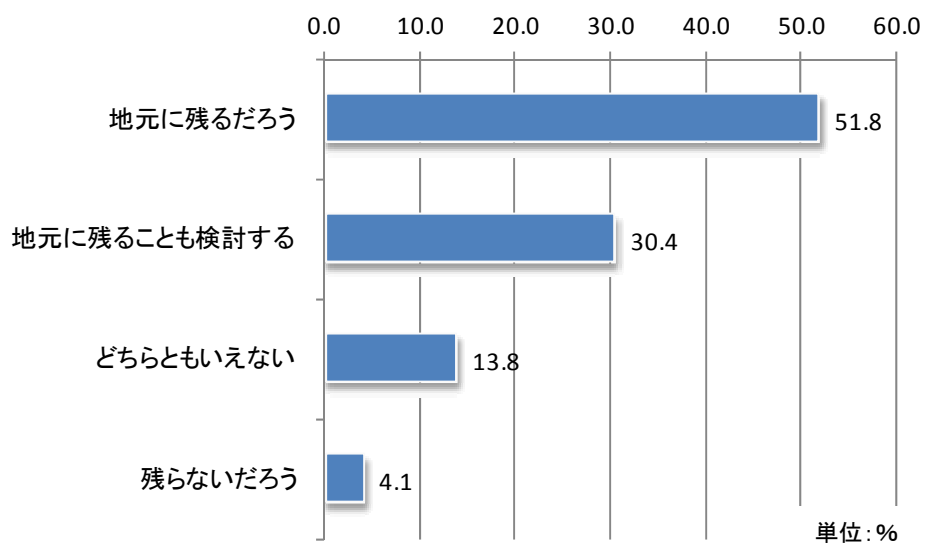


【地元に残るために最も必要な条件】



設問⑨ そのような条件が整ったとしたら、あなたは地元に残りますか。就学や就職、結婚などの時期を過ぎた方もその当時のことを思い出して、当てはまるもの1つにチェックしてください。

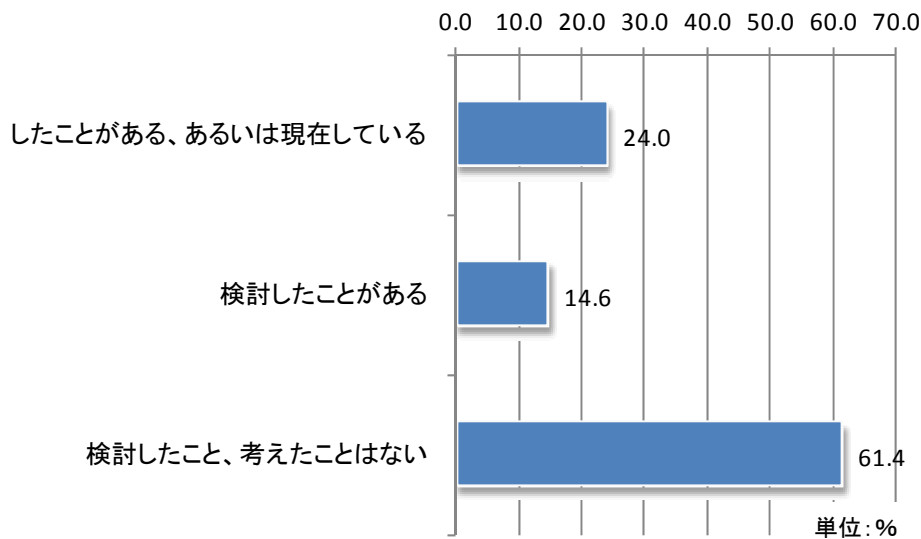
- 「地元に残るだろう」が51.8%と過半を超える。
- 「地元に残ることも検討する」が30.4%で続き、「残らないだろう」は4.1%に過ぎない。



### 3) スクリーニング調査(移住意向)

設問⑩ Uターン、Jターン、Iターン、2地域居住(以下「移住等」という)をしたことはありますか。当てはまるもの1つにチェックしてください。

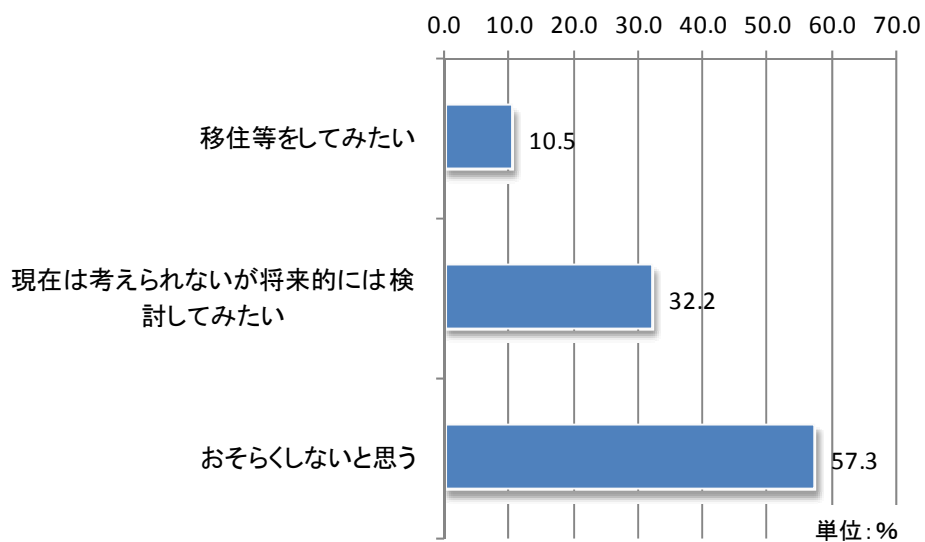
- 移住等(Uターン、Jターン、Iターン、2地域居住)を「したことがある、あるいは現在している」が24.0%、「検討したことがある」は14.6%を占める。



Uターン : 生まれ育った地域から進学や就職などを機に都会へ移り住んだ後、再び生まれ育った地域に移住すること  
Jターン : 生まれ育った地域から進学や就職などを機に都会へ移り住んだ後、生まれ育った地域に近い地方の都市に移住すること  
Iターン : 生まれ育った地域から進学や就職などを機にその地域にはない要素を求めて、または自己実現のために、別の地域に移住することで、特に都会で生まれ育った人が地方での暮らしに魅力を感じ、地方に移住すること  
2地域居住 : 2つの地域に生活拠点をもち、主に都会と農山漁村とを行き来しながら暮らすこと(週末を田舎で過ごす「週末ステイ」や季節に応じて拠点をかえる「シーズンステイ」など)  
※ここでいう「移住等」とは、国内に限ります。

設問⑪ 今後、移住等をしてみたいと思いますか？ 当てはまるもの1つにチェックしてください。

➤ 「移住等をしてみたい」は10.5%、「現在は考えられないが将来的には検討してみたい」が32.2%を占め、潜在的な移住希望者は4割を超える。

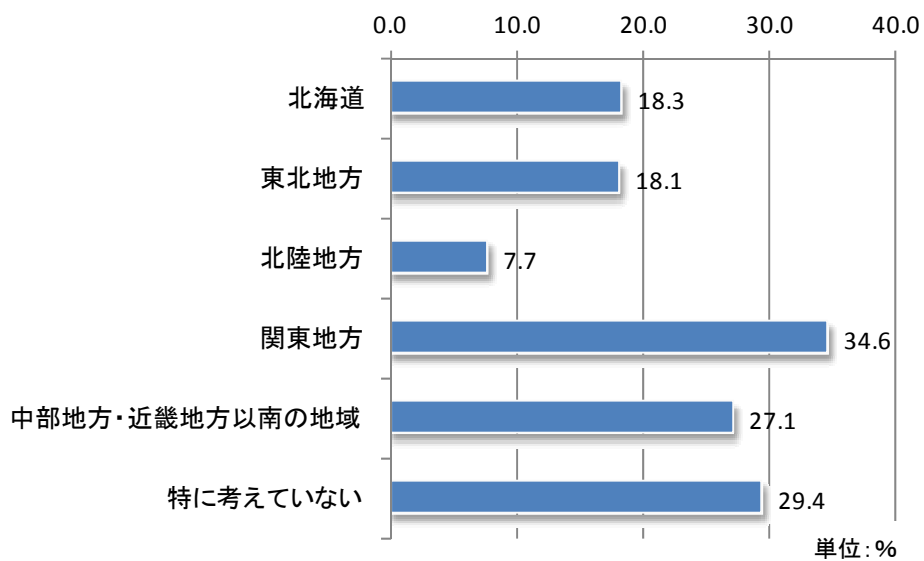


## 4-2 移住調査

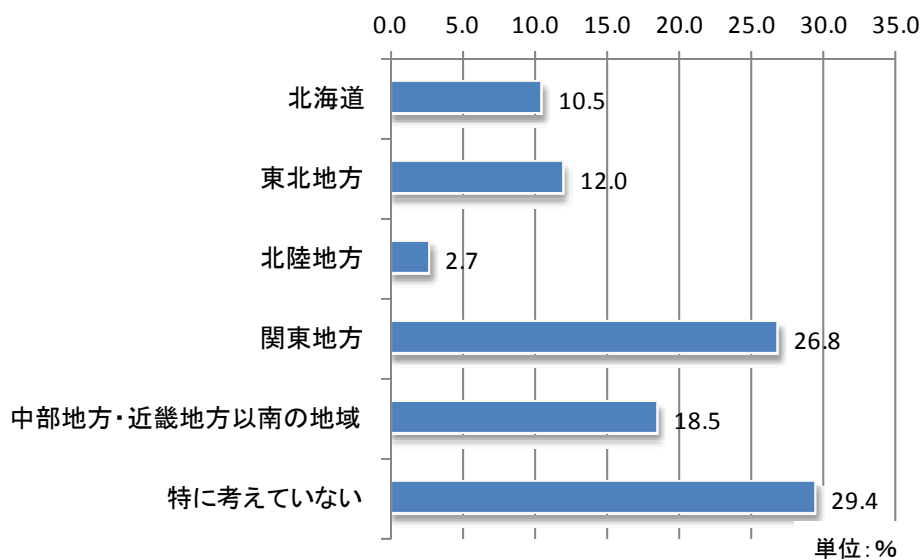
設問⑫ 設問⑪で移住等を「してみたい」「将来的には検討してみたい」とお答えの方にお聞きします。国内で移住等をしてみたい具体的な地域はありますか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最もしてみたい地域を1つ選んでください。

- ▶ 移住等を最もしてみたい地域は「関東地方」だが、「東北地方」も約2割の人が移住先として興味を持っている。

【移住等をしてみたい地域】



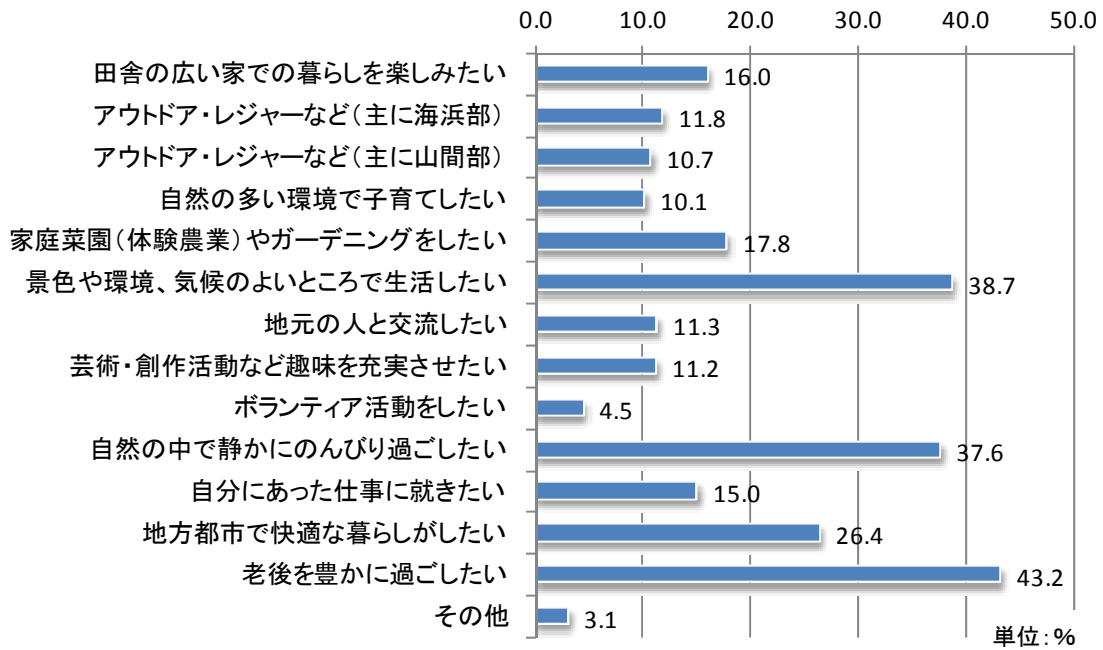
【移住等を最もしてみたい地域】



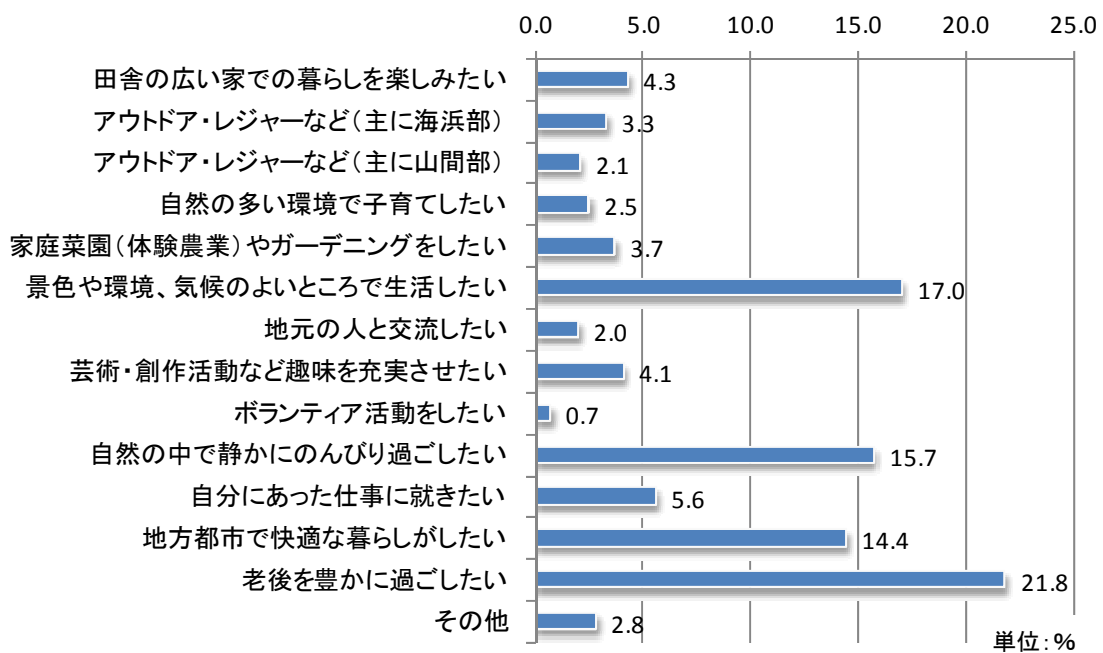
設問⑬ 移住等をするとしたら何をしてみたいですか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最もしてみたいことを1つ選んでください。

▶ してみたいことは、「老後を豊かに過ごしたい」、「景色や環境、気候のよいところで生活したい」、「自然の中で静かにのんびり過ごしたい」、「地方都市で快適な暮らしがしたい」に回答が集中している。

【移住等でしてみたいこと】



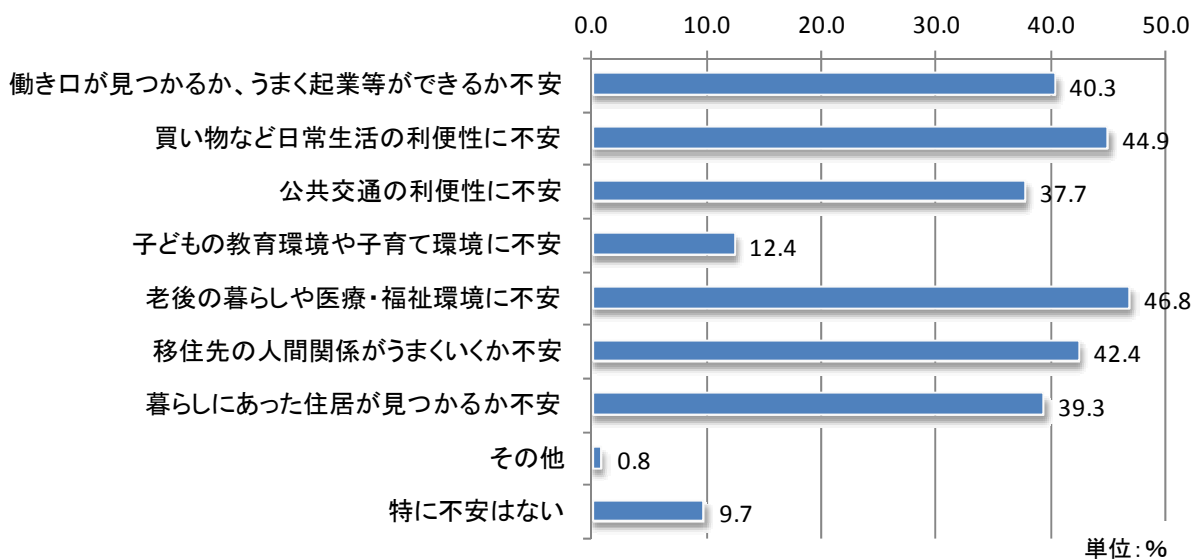
【移住等で最もしてみたいこと】



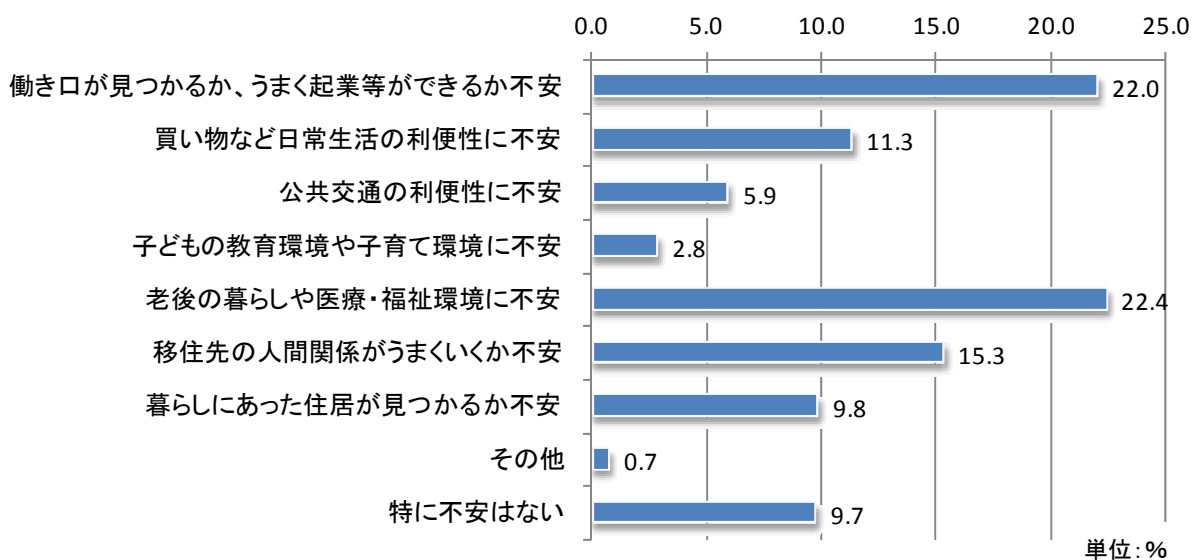
設問⑭ 移住等を検討する場合に不安なことは何ですか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最も不安なものを1つ選んでください。

➤ 移住等を検討する場合に最も不安なことは、「老後の暮らしや医療・福祉環境に不安」、「働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安」となっているが、利便性、人間関係、住宅など、不安材料は幅広い分野に広がっている。

【移住等で不安なこと】



【移住等で最も不安なこと】

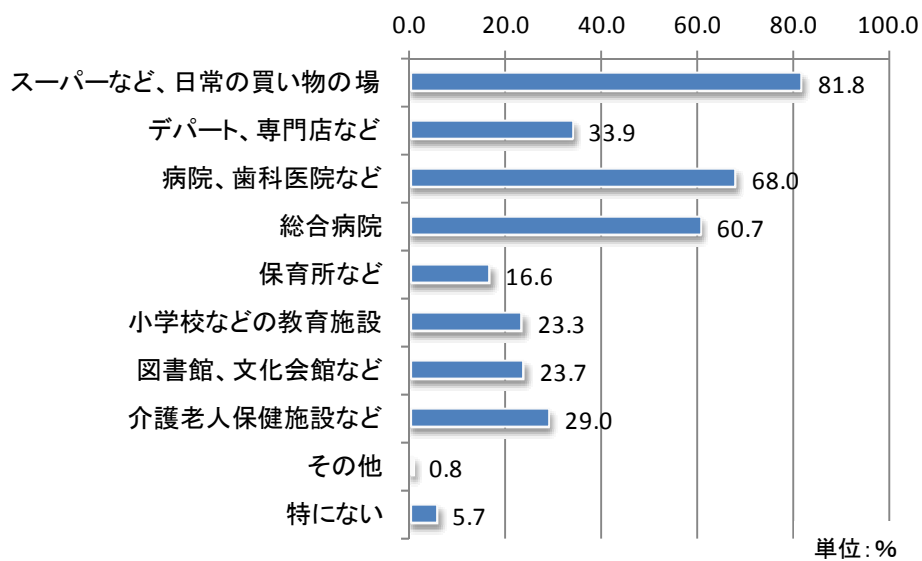




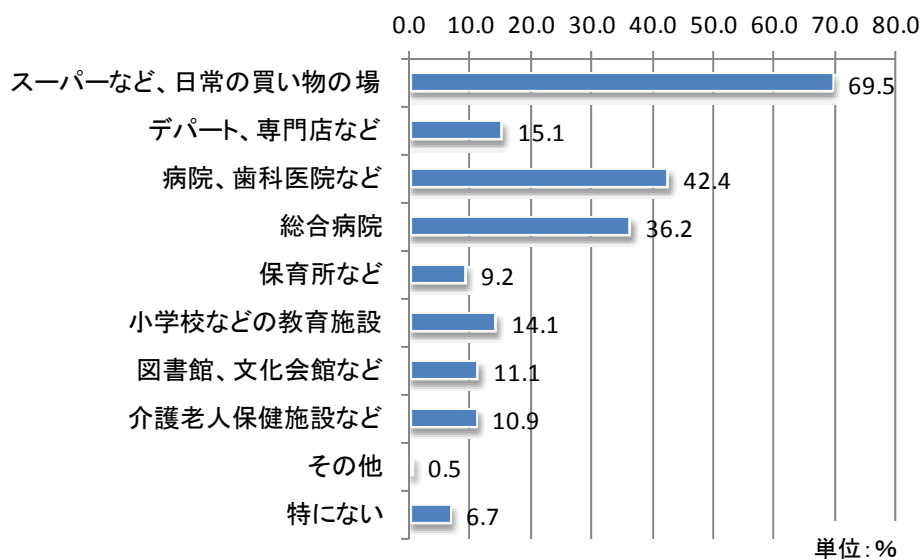
設問⑮ 移住等を検討する地域に必要な施設・サービスは何ですか。必要だと思うものすべてにチェックしてください。また、必要な施設・サービスについて、車で15分程度の距離(日常の生活圏内)に欲しいものをすべてチェックしてください。

- ▶ 移住等を検討する地域に必要な施設・サービスは、「スーパーなど、日常の買い物の場」、「病院、歯科医院など」、「総合病院」となっている。
- ▶ 車で15分程度の距離(日常の生活圏内)に欲しい施設・サービスとしては、「スーパーなど、日常の買い物の場」が望まれている。

【移住等を検討する地域に必要な施設・サービス】



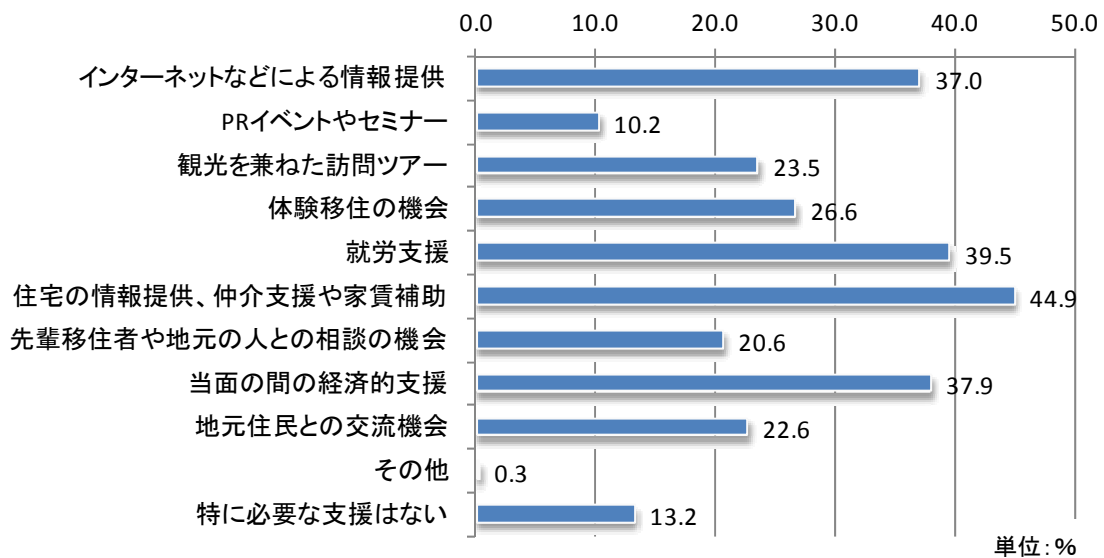
【車で15分程度の距離(日常の生活圏内)に欲しい施設・サービス】



設問⑩ 移住等を検討する場合、どのような支援策が必要だと思いますか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最も必要だと思う支援策を1つ選んでください。

- 移住等を検討する場合に必要な支援策としては、「就労支援」、「当面の間の経済的支援」、「住宅の情報提供、仲介支援や家賃補助」といった経済的な支援が求められている。
- 情報提供に関しては、「インターネットなどによる情報提供」を求める声が多い。

【移住等を検討する場合に必要な支援策】



【移住等を検討する場合に最も必要な支援策】

